

2025 年 5 月 27 日

第 11 回刈谷市スマートシティ推進協議会 議事録

- 日 時：2025 年 5 月 27 日
- 場 所：刈谷市役所 7 階大会議室及び ZOOM
- 参加者：別紙のとおり
- 議 事：

開会

- 挨拶（企画財政部長）
 - ・ 定刻となったため、第 11 回刈谷市スマートシティ推進協議会を開会する。
- 挨拶（会長）
 - ・ 本日はご参加くださり感謝申し上げます。
 - ・ 刈谷市は、4/1 に市制施行 75 周年を迎えた。明後日には刈谷市市制施行 75 周年記念式典を予定しており、パリオリンピックで活躍された方をはじめとした、刈谷市ゆかりの方を表彰する予定である。
 - ・ 75 周年の刈谷市のイベントとして主だったこととしては、わんさか祭りでは 500 機のドローンショー、大相撲刈谷場所、亀城公園でのロックフェス、NHK のど自慢などが控えている。
 - ・ 本日の議題の 1 つ目は「令和 6 年度課題解決型実証プロジェクトの活動報告について」である。それぞれ各社からご発表いただく。
 - ・ 2 つ目は「令和 7 年度課題解決型実証プロジェクトの選定結果について」である。今回は 4 つの課題に対して、7 つのプロジェクトの企画提案をいただいた。
 - ・ 3 つ目は「令和 7 年度の活動予定と新たな取組について」である。具体的には、会員交流の場を設け、テーマを絞った形で、各会員企業のご担当者の皆様と、ざっくばらんに意見交換ができる場を設けていくという提案である。

議題 1 令和 6 年度課題解決型実証プロジェクトの活動報告について（資料 1）

- 資料 1「令和 6 年度課題解決型実証プロジェクトの活動報告について」について、昨年度実施した、5 件の課題解決型実証プロジェクトについて、各事業者からプレゼン 10 分＋質疑応答 5 分の 15 分間で進めていく。（企画政策課みらい共創係）
 - ・ 大人に響く交通安全（くらし安心課×西日本電信電話株式会社）
 - ・ 大人に響く交通安全（くらし安心課×株式会社アイシン）
 - ・ 子どもの見守りサポート強化（子ども課×トヨタ車体株式会社）
 - ・ 保育教諭が働きやすいスマートな保育園・幼児園の実現（子ども課×トヨタ車体株式会社）
 - ・ 気が利くバス停（都市交通課×株式会社キャッチネットワーク）

○大人に響く交通安全（西日本電信電話株式会社）

- 実証内容の説明
 - ・ 背景として、横断歩道がなく、危険な横断が多発する箇所において、危険な横断を抑制したいという

課題があった。

- ・ 実証内容は大きく2つある。1つは、AIカメラを用いて、危険な横断を検知した場合に光・音声などのアラートを出すというシステムの設置。2つ目はシステムの導入によってどのような効果があったのかを検証するというもの。
- ・ 刈谷駅北口のコンビニ前の、横断歩道が離れていて、危険な横断が多発している箇所を選定した。
- ・ 歩行者が車道上に設定された検知線を横切った際に、アラートを発する設定とした。
- ・ 成果としては、検知の精度は90%以上が確認された。
- ・ 注意喚起パターンを期間中に変更したが、注意喚起を強くすることで、乱横断をさらに減少することが確認され、全体としても30%減った。
- ・ WEB アンケート（実施場所付近で掲示した看板でアンケートの案内を実施）では、半数以上の方が効果があると回答された。
- ・ 横断歩道を設置してほしいとの意見もあった。
- ・ AIカメラによる検知を避けるため、AIカメラの画角外での横断も見られた。
- ・ 実装に向けた課題としては2点考えられる。
 - 電力会社電柱など設置に適した電柱が使用できない可能性があるなどの設置場所の選定。
 - 検知を避ける行動が見られるため、これを防止するためのより広い検知エリアの設定。

- 質疑応答

- ・ （特になし）

- 担当課からのコメント

- ・ （不在のためなし）

○大人に響く交通安全（株式会社アイシン）

- 実証内容の説明

- ・ 大人になると交通安全施策に関して、ありきたりなことをしても効果が薄いことが課題であるが、これをメタバースを用いることで克服できないかということで実施した。
- ・ アイシン社内と市内3イベントの計4イベントでVRゴーグルを用いて没入型体験を提供した。
 - 第1回は刈谷わんさか祭りにて「歩行者視点」の没入型体験を実施した。
 - 第2回は刈谷産業まつりにて「自転車視点」の没入型体験を実施した。
 - 第3回は刈谷市交通安全推進協議会にて「自動車視点」の没入型体験を実施した。
- ・ アンケートは計467人に回答いただいた。
 - 元々心がけていると回答した約半数を除いた内の41.7%の方が心象変化があったと回答した。
 - イベントそのものの評価として、5点満点中4.4と高評価を得られた。
- ・ 実装に向けた課題としては4点考えられる。
 - UIの改善（酔い防止や早着のハードルを克服するための多用途ディスプレイの導入など）
 - ターゲット層の拡大（大人だけでなく、高齢者やデジタルネイティブ世代への訴求も必要）
 - シナリオ（参加者の興味を引くためのシナリオやシミュレーションの活用など）

- 参加者の拡大（様々なデバイスや場所からのアクセスを可能にするなど）

- 質疑応答

質問：VR ゴーグルを用いているが、取組の持続性はどうか？

回答：VR ゴーグルは誰でも所持しているというのではなく、参加にはハードルがあると考えている。それを踏まえ今考えていることとして、VR ゴーグルを被らなくても同等の体験価値を得られる案を考えている。インターフェイスは VR ゴーグルに限らず、マルチディスプレイや、画像認識を活用したフィードバックなどを活用することで、インタラクティブな体験を提供できていると思っている。

- 担当課からのコメント

- ・ （不在のためなし）

○子どもの見守りサポート強化（トヨタ車体株式会社）

- 実証内容の説明

- ・ 子ども置き去りや行方不明を予防するため、子どもの位置情報を正確に効率的に測りたいということで実施した。
- ・ 「園内外の両方における位置測位の実証」、「装着方法や充電作業、管理の実証」、「アプリケーションの操作性・機能性の実証」の3点を実証。
- ・ 通信については良好な結果が得られたものの、測位が数十 m ずれることが日に 1～2 回/台ほど発生することがある。
- ・ 装着方法は園児にも好まれ良好であった。
- ・ アプリケーションで複雑な操作はなく、点呼機能も十分に機能した。
- ・ 子どもの位置の把握に一定の効果があつた。
- ・ 測位精度の担保が難しく、園外への移動の常時監視には適していない。
- ・ 実装に向けた課題としては2点考えられる。
 - 測位精度と受信機サイズ、充電頻度、コスト、またこれらのバランスを取った上での運用方法の策定。
 - 充電作業や管理における作業負担の軽減。

- 質疑応答

質問：誤差が出ることだが、誤差は最大でどの程度になったか。また、目標値はどれくらいであったか。

回答：単独測位のズレは一般的に 10～50m と言われているが、今回 100m 程度ずれる例もあった。現状では、園外に出たことを観測するというのは厳しいと考える。より精密な精度になるにはあと 5 年くらいはかかるのではないかと。

- 担当課からのコメント

- ・ 私自身、機械のこなど何も分からない中、子どもの安全を守るということをよく考えていただき感謝する。最終的には一人残らず誤差をなくすることが目標とおっしゃっていた。3 園で実証実験を継続していくに

つれ、実際に誤差も小さくなっていった。GPS だと園から子どもが出た時、広い範囲で示されるが精度がまだ低く、ブルートゥースでは、精度は高いが、園から出た子どもをしっかり把握ができないこととことから、これからの GPS の精度が上がってくることに関心している。私も子どもを守ることに関して、様々なことを学ばせていただいたと感じている。子どもとても喜んでいて、感謝する。

○保育教諭が働きやすいスマートな保育園・幼稚園の実現（トヨタ車体株式会社）

- 実証内容の説明
 - ・ 保育の負担を増やすことなく、園児の様子を保護者へ届けたいという思いで実施した。
 - ・ 「保育園内での自動撮影ロボの動作検証」、「撮影された写真の顔認証による自動振り分けの検証」の 2 点を実証。
 - ・ ロボットの動作やカメラ位置の改善により、狙い通りの画像を撮影することができた。
 - ・ 撮影した写真の顔認証は 97%の精度であった。一方で、他の要件の映り込みなど配布に適さないものも確認された。
 - ・ 実装に向けた課題としては 2 点考えられる。
 - 園児ごとの仕分けだけでなく、映り込み等のない、直接配布できるレベルへの仕分けシステムの改良
 - 障害物の回避や、フロア間・屋内外の移動などのロボットの使用性の向上
- 質疑応答
 - ・ （特になし）
- 担当課からのコメント
 - ・ 保護者の方は、普段子どもがどのように遊んでいるのかかなり関心を持っておられ、保育参観などにもよく来られるが、実際に保育教諭と子どもが遊んでいる様子が撮影できることはとても良いと感じた。また、保育教諭の負荷軽減にも繋がると感じた。プロジェクトの中では、実際に保育教諭が撮影するレベルのものを要求したが、その都度ロボットの角度や高さなどを調整していただき、子どもの安全ということを守りながら、良い写真を見せていただき、楽しく参加させていただいた。いくつか課題はあるが、すぐに現場に欲しいと感じるものであった。

○気が利くバス停（株式会社キャッチネットワーク）

- 実証内容の説明
 - ・ 既設大型サイズのモニタの設置が出来ない主要停留所以外のバス停での運行状況の発信をするために実施した。
 - ・ 「小型サイネージによる運行状況表示による利便性の検証」、「動画コンテンツによる情報発信有効性の検証」の 2 点を実証。
 - ・ 利用者アンケートから、89%の方が「便利で他のバス停にも欲しい」と回答したほか、62%の方が情報発信に興味を示す結果となった。

- ・ 他のバス停への設置を希望する意見が多かった。
- ・ 実装に向けた課題としては 4 点考えられる。
 - 表示する文字サイズの拡大
 - さらなる小型化やコストダウン
 - 耐環境性能の検証
 - 設置拡大に向けたビジネスモデルの検討
- 質疑応答
 - ・ （特になし）
- 担当課からのコメント
 - ・ 都市交通課では、令和 8 年 2 月にかりまるの再編を予定しており、利用者目線での利便性の向上を念頭に取り組んでいる。その一環で、スマートフォンをお持ちでない方にも運行状況を確認できるようにという思いで、このプロジェクトに手を挙げることにした。課題も様々あるが、今後克服されることを期待している。今後は、利用者の多いバス停に対して、順次バスロケシステムの導入を検討し、利便性の向上につなげたいと考えている。

議題 2 令和 7 年度課題解決型実証プロジェクトの選定結果について（資料 2）

- 資料 2「令和 7 年度課題解決型実証プロジェクトの選定結果について」について（企画調整監）
 - ・ 実証プロジェクトを募集した課題は 4 点である。
 - 働く世代の睡眠習慣の改善（健康推進課）
 - デジタルがつなぐ子どもの居場所づくり（子育て推進課）
 - 誰もが足を止めたくなる駅前空間の創出（まちづくり推進課）
 - デジタルが導くホームタウンパートナーの認知度向上（スポーツ課）
 - ・ 応募された企画提案は全 7 件である。
 - 働く世代の睡眠習慣の改善（2 件）
 - デジタルがつなぐ子どもの居場所づくり（0 件）
 - 誰もが足を止めたくなる駅前空間の創出（1 件）
 - デジタルが導くホームタウンパートナーの認知度向上（4 件）
 - ・ 審査は、4/25（金）に応募を締め切り、一次審査、二次審査を実施してきた。
 - ・ 審査の結果、評価の高かった 3 提案を選定した。
 - スマートスリープ 2025～働き世代の睡眠改革へ向けた第一歩～（MIRAERA 株式会社）
 - 笑顔が寄付に変わる！共感型まちづくり広告プロジェクト（一般社団法人 One Smile Foundation）
 - 刈谷市スポーツコミュニティの形成によるホームタウンパートナーの情報集約と、刈谷キラキラ教室のデジタル化（SpoLive Interactive 株式会社）
 - ・ 今後、プロジェクトの実施に向けて、市と提案者で各種調整を行い、実証を実施する。
 - ・ 今年度 3 月の次回の協議会にて成果報告を予定。

- ・ 明日 HP にて選定結果を公開する。
- ・ 選定した 2 プロジェクト（一般社団法人 One Smile Foundation、SpoLive Interactive 株式会社）は、課題があるため実証が予定通りに進まない、又は実証を中止する場合がある。

議題 3 令和 7 年度の活動予定と新たな取組について（資料 3）

- 資料 3「令和 7 年度の活動予定と新たな取組について」について（企画調整監）
 - ・ 現在、刈谷市スマートシティ構想において、実証プロジェクトの推進を実施するフェーズ 1 の最終段階であり、今年度から実装に向け進んでいくフェーズ 2 に移行していくことが求められる。
 - ・ これまで様々なプロジェクトを実施してきたが、実装に至ったのは 2 件のみとなっている。実装に移行していくにあたり、「実証済プロジェクトのフォローアップ」「会員交流の場の創出」の 2 つを実施していく。
 - ・ 新たな会員交流の場について。
 - 若手から中堅の方を中心に、楽しく交流し、アイデアの議論ができる場を想定している。
 - テーマを限定して、会員企業から参加者を広く募集し、2 回程度の開催を予定する。
 - 良いアイデアが出なかった場合は解散し、別テーマで再募集を検討する。
 - 2 回程度の開催の後、継続の機運が高まった場合は、見学会や懇親会の開催も検討する。
 - ・ 今後のスケジュールとしては、課題解決型実証プロジェクト、実装に向けたフォローアップ、会員交流の場の開催の 3 つを進めていく予定である。
 - ・ フィールド提供型実証プロジェクトも通年実施しており、今年度のフィールド提供型実証プロジェクトは 2 件を予定している。
 - 無人航空機（ドローン）を活用した有害鳥対策（有限会社天美堂塗装処×農政課）
 - 音声認識システム「YYSystem」を活用した円滑なコミュニケーション（株式会社アイシン×企画政策課）

閉会

- 挨拶（会長）
 - ・ 昨日、刈谷市総合教育会議を実施し、5 年間の教育大綱を改訂していく。
 - ・ 刈谷市は理系教育が強みであり、強みを伸ばすべきと考えており、AI の活用を教育大綱に盛り込みたいと考えている。
 - ・ 教育における AI の活用に関して、何かアイデアがあればいただきたい。
- 次回、第 12 回刈谷市スマートシティ推進協議会は、令和 8 年 3 月 24 日 14 時からの開催を予定している。
- （企画財政部長）
 - ・ 以上をもって終了する。